

前期課程

がんばった文かさい

二年A組 小松 結花

さいしよは、せりふも歌もしつばいしたけれど、何回もれんしゅうしたら、うまくになりました。

じっさいにアリーナでやってみたら、前にやったときよりずっとうまくなっていました。どんどんれんしゅうして、せりふも歌ももつとじょうずになりました。

そして、本番になつてスイミーが終わつたら、自分でもせいこうしたと思ひました。みんなが力を合せてからせいこうしたのだと思ひます。インタビューも大きな声ではつきり言えました。

スイミーの劇が本当にじょうずにできてよかつたです。家に帰つてから、「じょうずにできたね。」とほめてもらえてとてもうれしかつたです。



野菜販売を頑張った

三年A組 坂野 律

僕は、TOBI探で野菜を売るときが一番緊張しました。どうしてかという、知らないお客さんが来るからです。知らない人と話すのははずかしいし、こわいし、まちがっていたらどうしようかと思ひます。「いらつしやいませ、こまつなどほうれんそうです。」など、声を出す練習をしました。さらに、ぼくは記録係だったから、野菜がなんこ売れたか記録を取る練習もしました。

たくさん練習したけれど、本番は上手にできるかドキドキしました。でも、知っている人がたくさん来て、安心しました。それでもはずかしくて、勇気を振り絞つてちよつとだけ声を出すことができました。お客さんはたくさん買ってくれたので記録するのが大変で、むずかしかつたです。だけど、記録係の仲間に「頑張れ。」と言われて「そうだな、頑張つて



みよう。」と思ひました。

野菜を育てて、野菜を収穫したときが一番汗が出ました。こまつなはたくさんあるので大変でした。だけど、友達のこりを全部取ってくれたり、こまつなを洗つているときも手伝つてくれたり、袋詰めのときも協力してくれて、嬉しかつたです。

本番はめちやくちやドキドキしたけれど、友達と一緒にがんばるきもちになれたし、野菜も全部売れてうれしかつたです。

成功した今年といの初等部文化祭

四年A組 伊藤 葵子

私が文化祭で心に残つたことは三つあります。

一つ目は、「ともだちになるために」をソロで歌つたことです。むずかしかつたことは、最初の音を大きくしつかりと聞こえるように声を出すことです。見に来てくれているお母さんに声が届くように大きな声で歌いました。

二つ目は、せりふを言うことでお母さんだけでなく一年生から三年生やお客さんにも伝わるよ

うに大きな声で話しました。

三つ目は、合奏の「ジッパデーデューダー」で鉄琴を演奏したことです。鉄琴が、一つまちがえるだけでみんなのリズムが合わなかつたり、まちがった音で合奏が変になつたりしてしまつたので、とてもむずかしかつたです。でも、みんなで息を合せてたのでとてもすばらしい合奏ができました。

来年は中等部になりますが、今の五年生や六年生みたいにかつこいい姿をいろいろな人に見せたいです。



後期課程

残りの学園生活

九年A組 鈴木 誠伍

残りの学園生活は受験までの間は勉強し、合格した後をみんなとの大切な時間や思い出にしようと思つています。

これまで、村外の人との関わり



最近の習慣

が少なかったため、高校入試や志望校に入学してからのことを考えるととても緊張します。それでもこの先の高校生活では、新しい友達をたくさんつくり、たくさん楽しみたい、人生で一番楽しいピークの時期にしたいと思っています。

学園での「九年間」は、文字にしてみるととても長い時間ですが、実際に過ごした思い出を振り返ってみるととても短かったです。学年ごとに毎年仲のよい友達ができ、みんなよい人でとても楽しかったです。卒業して、九年以上一緒にいた学年の仲間と別れるのはとても悲しいです。学園の中でもプライベートでも、残った友達との時間は楽しく、大切に過ごそうと思っています。

九年A組 山崎 瑠美

私は最近、移動教室の際にゆっくり歩くことを意識しています。思い出のつまった学園内の施設をゆっくりと見てまわることができるところです。ゆっくり見ながら歩いていると、あちこちで太陽の光がたくさん差し込むデザインがとても素敵だなと思います。特にた

明るい気持ちで卒業するために

くさんのことを感じるのが階段教室です。ほぼすべての学年が近くを通るので、思い出がたまっていく場所です。

低学年のころの記憶はほとんどありませんが、階段教室を眺めていると、当時の担任だった先生にもらったヒゲのふせを鼻につけて遊んだこと、総合的な学習の取り組みで「紙はゴミじゃない」とみんなが叫んだことなどを思い出します。

他にもたくさん場所の思い出がたまっていきます。残りの学園生活を楽しみたいです。

九年B組 太田 美咲

私は二学期が終わるまで、学園の卒業が近づいているという実感があまりなかったです。しかし、冬休みに入り、勉強する時間が増えて今までは違う生活リズムになり、「もうすぐで卒業するんだなあ。」とだんだん実感がわいてきました。そして、明るい気持ちで卒業ができるように入試に向けてラストスパートをかけていきたいと思っています。

卒業したくないぜ☆

私は五年生のときに学園へ転入しました。九年生までの約五年間の学園生活はいろいろなことがあり、特に来たばかりの頃は不安なことも多かったけれど、今振り返ってみると長いはずの五年間があつという間でした。

あと少しの学園生活を悔いのないものにできるように、受験が終わっても、高校に向けて勉強を続け、楽しかったと思えるように一日一日を大切にしたいです。

九年B組 服部 瑞

私は残りわずかとなった学園生活で、「やり遂げたいこと・やり残したことは何かないか」を考えたときに何も思い浮かびませんでした。なぜなら、ここまで本当にたくさんさんのことを経験させていだいたからです。

体育祭では学年の代表として振り付けをしたり、生徒会長となって仲間と協力して学園のことを考えたり、コロナウイルスの影響でなくなってしまうかもしれないと不安だった修学旅行も無事に二泊三日で行くことができたことなど、

飛鳥学園3月の行事予定

- 5日(火) 9年修了式 給食終了
- 6日(水) 卒業証書授与式(1~7年家庭学習日)
- 7日(木) 授業参観・学年懇談会
- 18日(月) 6年修了式 給食終了
- 19日(火) 前期課程修了証書授与式
- 21日(木) 給食終了
- 22日(金) 修了式
- 4月4日(木) 入学式・後期課程進級式
- 5日(金) 1学期始業式



楽しかったことも辛かったこともたくさん経験し、学ぶことができました。

これからは感謝したいです。長く一緒に過ごした同じ学年の仲間はもちろん、仲良くしてくれた下の学年の子たちや、わがままを聞いてくださった先生方に、学園にどんな形でもいいから思いを伝えて、悔いのないようにしたいです。